

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年8月3日版)

平成27年8月3日
野菜需給部

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報	7月の価格情報			生育及び価格の8月上旬までの見通し		
		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)		指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額			
		下旬	上旬	中旬			
葉茎菜	キャベツ	67.20 (122%)	74.19 (112%)	75 (101%)	・入荷量: 15,431t ・主産地: 群馬 (79)、岩手 (14)	・群馬産は、干ばつの影響と後続産地の生育遅れから、平年よりやや少なめの出荷となっており、気温の高い状態が続く中で病害の発生はないものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、干ばつの影響で生育に停滞が見られ、小玉傾向で平年より少なめの出荷となっており、最近の降雨により回復傾向にあるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	・群馬産及び岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年並みの価格は平年を上回って推移する見込み。
		81.66 (111%)	88.91 (99%)	77 (87%)	・入荷量: 4,311t ・主産地: 群馬 (77)、長野 (21)	・群馬産及び岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年並みの価格は平年を上回って推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	264.10 (159%)	273.33 (167%)	456 (152%)	・入荷量: 4,601t ・主産地: 茨城 (38)、青森 (19)、秋田 (10)、北海道 (9)、千葉 (4)	・茨城産は、7月上旬の降雨による収穫の遅れで平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、干ばつ傾向ではあるものの最近の降雨もあり生育に大きな影響はなく、平年並みの出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。	・青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		334.73 (91%)	487.13 (61%)	305 (63%)	・入荷量: 645t ・主産地: 香川 (31)、奈良 (15)、徳島 (12)、大阪 (9)	・茨城産は、7月上旬の降雨による収穫の遅れで平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、干ばつ傾向ではあるものの最近の降雨もあり生育に大きな影響はなく、平年並みの出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。	・青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	はくさい	67.05 (131%)	58.82 (122%)	72 (114%)	・入荷量: 5,881t ・主産地: 長野 (93)	・長野産は、最近の降雨後の強い日差しと高温から病害の発生やはくさいの巻きが弱く、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も大きな増加は見込まれないので、平年よりやや少なめの出荷の見込み。	・長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		77.96 (122%)	62.79 (119%)	71 (113%)	・入荷量: 2,494t ・主産地: 長野 (100)	・長野産は、最近の降雨後の強い日差しと高温から病害の発生やはくさいの巻きが弱く、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も大きな増加は見込まれないので、平年よりやや少なめの出荷の見込み。	・長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	376.10 (129%)	583.95 (96%)	562 (115%)	・入荷量: 771t ・主産地: 栃木 (29)、群馬 (28)、茨城 (13)、岩手 (12)	・栃木産は、梅雨明け後の急激な気温の上昇により病害が発生したため、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の安定に伴い生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、山間部からの出荷となり、7月の天候不順の影響で生育が停滞し、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は病害の発生もなく生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温が高いものの生育は順調で平年並みの出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。岩手産は、高温障害と干ばつの影響から引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	・栃木産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、岩手産が平年より少なめの出荷と見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		396.89 (147%)	670.86 (95%)	637 (97%)	・入荷量: 389t ・主産地: 岐阜 (82)、北海道 (13)	・栃木産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、岩手産が平年より少なめの出荷と見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	レタス(結球)	120.13 (101%)	120.13 (101%)	121 (122%)	・入荷量: 9,089t ・主産地: 長野 (86)、群馬 (11)	・長野産は、降雨後の強い日差しと高温が続いているため病害が発生しており、平年よりやや少なめの出荷となっていものの、天候の安定に伴い病害から回復が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、7月の長雨後の高温の影響による生育不良から品質劣化と小玉傾向となっていることから、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	・長野産の出荷が平年並みと見込まれるもの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		125.61 (101%)	127 (101%)	127 (127%)	・入荷量: 2,205t ・主産地: 長野 (99)	・長野産は、降雨後の強い日差しと高温が続いているため病害が発生しており、平年よりやや少なめの出荷となっていものの、天候の安定に伴い病害から回復が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、7月の長雨後の高温の影響による生育不良から品質劣化と小玉傾向となっていることから、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	・長野産の出荷が平年並みと見込まれるもの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	71.02 (170%)	121 (163%)	84.85 (158%)	・入荷量: 9,624t ・主産地: 北海道 (46)、兵庫 (23)、佐賀 (16)	・北海道産は、順調な生育で8月のお盆以降本格的な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、前進出荷で平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。	・北海道産及び兵庫産の出荷が平年並みの出荷と見込まれるもの、価格は現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		71.02 (172%)	122 (164%)	84.85 (158%)	・入荷量: 3,201t ・主産地: 兵庫 (82)、北海道 (14)	・北海道産は、順調な生育で8月のお盆以降本格的な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、前進出荷で平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。	
果菜	きゅうり	189.84 (113%)	210.69 (110%)	231 (128%)	・入荷量: 8,155t ・主産地: 福島 (43)、岩手 (22)、秋田 (13)、宮城 (4)	・福島産は、干ばつ傾向であるが、灌水により大きな影響はなく病害も発生していないことから、生育は順調で平年並みの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、6月下旬から7月中旬まで降雨がなく草勢が弱くなっているため、今後も引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、7月中旬から下旬の大雨の影響と成り疲れから、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は出荷量が増加して平年並みの出荷の見込み。	・福島産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		177.22 (126%)	221.71 (110%)	243 (123%)	・入荷量: 2,121t ・主産地: 福島 (35)、北海道 (28)、愛媛 (17)	・福島産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	トマト(大玉)	209.59 (130%)	229.51 (118%)	271 (131%)	・入荷量: 9,898t ・主産地: 青森 (23)、北海道 (17)、福島 (17)、群馬 (11)、岩手 (9)、千葉 (7)	・青森産は、干ばつ傾向であるが病害の発生が少なく生育は順調で、平年並みの出荷である。引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、6月下旬から7月上旬にかけての低温により生育に遅れが見られ、平年より少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇に伴い、平年並みの出荷の見込み。福島産は、ハウス栽培により灌水が可能であることから干ばつの影響はなく生育は概ね順調で、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。	・青森産、北海道産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		228.53 (127%)	271.33 (105%)	284 (114%)	・入荷量: 2,441t ・主産地: 岐阜 (42)、北海道 (40)	・青森産は、干ばつ傾向であるが病害の発生が少なく生育は順調で、平年並みの出荷である。引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、6月下旬から7月上旬にかけての低温により生育に遅れが見られ、平年より少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇に伴い、平年並みの出荷の見込み。福島産は、ハウス栽培により灌水が可能であることから干ばつの影響はなく生育は概ね順調で、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	なす	297.07 (120%)	357 (198%)	209.55 (205%)	・入荷量: 5,145t ・主産地: 栃木 (31)、群馬 (27)、茨城 (24)、埼玉 (8)	・栃木産は、梅雨明け後の生育は概ね順調で病害もないことから平年よりやや多めの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。群馬産は、病害もなく生育は順調であるが、最近の高温の影響から花落ちが見られ、出荷量は平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、雨と高温の影響から病気が見られ、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は天候の回復に伴い、平年並みの出荷の見込み。	・栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づく見込み。
		271.01 (116%)	314 (143%)	221.72 (143%)	・入荷量: 1,222t ・主産地: 山梨 (27)、徳島 (11)、大阪 (9)、奈良 (9)、京都 (8)、茨城 (7)	・栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づく見込み。	
	ピーマン	251.50 (128%)	321 (136%)	251.50 (176%)	・入荷量: 2,448t ・主産地: 岩手 (43)、茨城 (20)、福島 (18)	・岩手産は、6月下旬から7月中旬まで雨が少なく草勢が弱くなっているため、今後も引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、6月下旬から7月中旬の曇天とその後の好天続きによる実の焼けにより、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。福島産は、トンネル栽培での前進出荷から平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は高温の影響もあり平年並みの出荷の見込み。青森産は、生育は順調で今後も平年並みの出荷の見込み。	・岩手産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめ、福島産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		266.65 (129%)	345 (141%)	266.65 (160%)	・入荷量: 618t ・主産地: 兵庫 (19)、北海道 (14)、青森 (13)、福島 (10)、大分 (10)、愛媛 (7)、高知 (7)	・岩手産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめ、福島産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
根菜	だいこん	86.59 (95%)	94.60 (113%)	107 (112%)	・入荷量: 9,568t ・主産地: 北海道 (72)、青森 (22)	・北海道産は、6月下旬から7月上旬の低温、日照不足及び7月上旬の少雨の影響から平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は気温の上昇と最近の降雨から生育が回復して、平年並みの出荷の見込み。青森産は、病気もなく順調な生育で品質も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	・北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		94.24 (90%)	100.39 (108%)	108 (109%)	・入荷量: 3,062t ・主産地: 北海道 (80)、岐阜 (8)、青森 (7)	・北海道産は、道南の前進出荷が終盤を迎え、出始めの後続産地との出荷の谷間となり、平年より少なめの出荷となっていたものの、今後は後続産地が順調な生育であることから平年並みの出荷の見込み。	
	にんじん	133.01 (98%)	131 (74%)	133.01 (77%)	・入荷量: 6,467t ・主産地: 北海道 (86)、青森 (12)	・北海道産は、順調な生育で肥大が進み大ぶりで品質も良いことから、今後も平年並みの出荷の見込み。	・北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、今後は平年並みに推移する見込み。
		132.62 (107%)	142 (74%)	132.62 (81%)	・入荷量: 2,232t ・主産地: 北海道 (91)、青森 (9)	・北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、今後は平年並みに推移する見込み。	

種類	6月の価格情報 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格 (平年)	7月の価格情報			生育及び価格の8月上旬までの見通し	
		指定野菜の関 東・近畿ブ ロック別平 均販売価額		上旬		
		下旬	指定野菜の関 東・近畿ブ ロック別平 均販売価額			
いも	さといも	344.00 (89%)	344.00 (117%)	403 (163%)	561 ・入荷量: 499t ・主産地: 千葉(55)、宮崎(30)、鹿児島(10)、輸入(3)	・宮崎産は、曇雨天が続いている影響で小玉傾向となり、また降雨により掘り取り作業が遅れていることから、平年よりやや少なめの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、出荷序盤であるが、4月下旬から5月中旬の干ばつと梅雨入り後の日照不足から生育にやや遅れが見られ、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量も増加していくことから、平年並みの出荷の見込み。
	ばれいしょ	347.90 (100%)	347.90 (139%)	484 (159%)	552 ・入荷量: 149t ・主産地: 宮崎(42)、鹿児島(18)、輸入(18)、大阪(12)、和歌山(9)	・宮崎産の出荷が平年並みやや少なめ、千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	ばれいしょ	131.80 (187%)	101.61 (242%)	246 (227%)	231 ・入荷量: 5,754t ・主産地: 北海道(73)、茨城(9)、青森(7)	・北海道産は、現在道南から道内向け中心の出荷であるが、春先の作業が順調に進んだことから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、好天により肥大が進み小玉から回復傾向となっているが、最近の降雨と高温から病気も始め、平年よりやや少なめの出荷となつており、今後は終盤となることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	ばれいしょ	131.80 (196%)	101.61 (254%)	258 (245%)	249 ・入荷量: 2,685t ・主産地: 北海道(78)、青森(13)	・北海道産の出荷が平年並み、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。

注: 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指教で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 句別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るものの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

7 平成25年8月20日版より、平均価格と句別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、6月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,044gで前年比101%、購入金額は、2,157円で同109%となつた。

また、小売物価統計によると、7月のキャベツの小売価格は、160円で過去5年平均比100%、レタスは、421円で同127%となり、キャベツは過去5か年平均並み、レタスは過去5か年平均を上回つた。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年			
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	1,755	99
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99	1,761	101
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	99	1,939	103
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	96	2,070	110
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	97	2,257	113
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	101	2,157	109
7月	4,402	1,737	4,542	1,770				
8月	4,315	1,731	4,275	1,846				
9月	4,688	1,844	4,745	2,035				
10月	5,191	1,902	5,455	1,973				
11月	4,990	1,700	5,291	1,704				
12月	5,146	1,927	5,233	1,977				

資料: 総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

注: 過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ		レタス			
	過去5カ年 平均	平成27年	5カ年比 (%)	過去5カ年 平均	平成27年	5カ年比 (%)
1月	212	229	108	684	827	121
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	188	137	317	392	124
7月	160	160	100	332	421	127
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料: 総務省「小売物価統計調査報告」

注: 1 過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。

2 平成27年7月の値は、7月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

6月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比113%の8万1千トン、加工野菜は同96%の15万2千トン、野菜全体は、同101%の23万3千トンとなつた。このうち中国産野菜合計は同103%の12万2千トンとなつた。

生鮮野菜は、前年を上回つた一方で、加工野菜が前年を下回り、野菜全体では前年をやや上回つた。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月~6月		平成27年6月	
	前年比	購入数量(g)	前年比	購入数量(g)	前年比	前年同期比	前年同期比	購入数量(g)
生鮮野菜	90	854,420	104	884,735	96	466,571	90	81,228
加工野菜	97	1,854,679	96	1,785,487	96	885,205	95	151,760
野菜合計	95	2,709,100	99	2,670,222	99	1,351,776	93	232,988
うち中国産野菜合計	97	1,416,557	100	1,409,604	666,930	93	122,408	103
中国産シェア	52	53			49		53	

資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料: 財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	主な野菜の輸入数量	
		平成26年6月(A)	平成27年6月(B)
たまねぎ	合計	35,172	38,983
	中国	31,678	32,139
にんじん	合計	6,435	8,745
	中国	6,236	8,442
ねぎ	合計	4,997	5,309
	中国	4,979	5,307

資料: 農林水産省「植物防疫統計」

注2: 輸入数量は、検査数量である。

注1: 平成27年6月は速報値。

注3: 冷凍を除く。

